

高校家庭科男女共学における学習内容への期待

後藤ヨシ子*・平湯 祥子**・山口 加代***

(平成6年3月15日受理)

Expectation for Contents of Study in Coeducational Home Economics Classes in Senior High School

Yoshiko GOTO, Shoko HIRAYU
and Kayo YAMAGUCHI

(Received March 15, 1994)

はじめに

平成6年4月からいよいよ高校家庭科男女共学が始まる。自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を重視する新しい学力観、また「多くの知識を覚える学校から学び方を学ぶ学校へ」と新たな学校観の創造等、生涯学習社会における高等学校教育のあり方、役割、機能も今や大きく変容しようとしている¹⁾³⁾。社会の急速な変化や新しい時代へ向けて家庭科教育のあり方も新たな視点に立ち多くの諸氏により検討が重ねられている⁴⁾⁵⁾⁷⁾⁸⁾⁹⁾¹⁰⁾。今日の高等学校教育のもつ課題や方向性を視野におき、これからの男女共学における家庭科学習にどのような内容が重視、期待されるか、今回は高校生や大学生に家庭生活や社会的課題に関するキーワード(Key Word)を提示し、生活意識の実態と関連させながら検討を行った。

研究方法

調査対象；長崎県の公立高等学校普通科2校1～2年生、男子生徒422名、女子生徒390名、計812名。さらに高校生の認識と比較するため長崎大学教育学部男子大学生61名、女子大学生151名、計212名にも同様の調査を実施した。対象者は高等学校で家庭科男女共学の経験はないが、中学校時代相互乗り入れにより一部男子生徒のうち家庭科を履修した者を含んでいる。

調査時期および方法；平成5年9月～平成6年1月。質問紙法による、教室内における集団調査を行った。

調査内容；「高校家庭科は平成6年度から男女共学が実施されようとしています。これからの新しい時代に向けて家庭生活や社会生活を営む上で、家庭科の学習において特に重要と思われるキーワード(Key Word)を3つ選んで下さい。」と設問し家庭科学習に関する内容や社会的今日的課題に関するキーワード24語を提示した(表1)。同時に家庭生活に関する意識調査を実施した。

結果及び考察

1. 家庭科の学習において特に重要と思うキーワード

上位10位までを示すと表1の通りである。

最も高いのは地球環境問題である。これは高校生・大学生及び男女性差を問わず重要と思う割合は高い。資源・環境問題は今日の社会的課題としてあり、家庭科の教科はもちろん他の教科においても重要な学習内容として位置づけられるものであろう。殊に家庭科では身近な資源・環境問題を解決することから地球規模での環境保全につながることの認識と行動力を育てるためにも、各分野で実際の生活に即して取り上げ生活のあり方について考えることができる。モノの生産・流通・消費・廃棄の循環を視野におき、リサイクルや

表1 学習内容に重要と思うキーワード

Key Word	高 校 生			大 学 生		
	男 子	女 子	合 計	男子学生	女子学生	合 計
生活自立能力	104(24.6)③	81(20.8)⑧	185(22.8)③	24(39.3)②	36(23.8)⑤	60(28.3)⑤
生活設計	31(7.4)	44(11.3)⑩	75(9.2)	5(8.2)⑨	11(7.3)	16(7.6)
消費者問題	16(3.8)	15(3.9)	31(3.8)	20(32.8)③	54(35.8)④	74(34.9)③
余暇	84(19.9)⑦	35(9.0)	119(14.7)⑨	5(8.2)⑨	8(5.3)	13(6.1)
福祉と介護	52(12.3)⑩	114(29.2)②	166(20.7)⑦	13(21.3)⑤	58(38.4)③	71(33.5)④
ボランティア活動	18(4.3)	32(8.2)	50(6.2)	3(4.9)	1(0.7)	4(1.9)
家族観	30(7.1)	54(13.9)⑨	84(10.3)	11(18.0)⑦	36(23.8)⑤	47(22.2)⑥
結婚と育児	37(8.8)	95(24.4)③	132(16.3)⑧	3(4.9)	19(12.6)⑨	22(10.4)⑩
生命誕生	30(7.1)	36(9.2)	66(8.1)	1(1.6)	8(5.3)	9(4.3)
エイズ	122(28.9)②	91(23.3)⑤	213(26.2)②	7(11.5)⑧	25(16.6)⑧	32(15.1)⑧
栄養と健康	86(20.4)⑤	92(23.6)④	178(21.9)⑤	19(31.1)④	61(40.4)②	80(37.7)②
食生活	86(20.4)⑤	91(23.3)⑤	177(21.8)⑥	11(18.0)⑦	13(8.6)⑩	24(11.3)⑨
食文化	33(7.8)	24(6.2)	57(7.0)	1(1.6)	1(0.7)	2(0.9)
バイオテクノロジー	42(10.0)	7(1.8)	49(6.0)	0	1(0.7)	1(0.5)
衣生活	13(3.1)	12(3.1)	25(3.1)	3(4.9)	3(2.0)	6(2.3)
ファッション	56(13.3)⑨	30(7.7)	86(10.6)	1(1.6)	0	1(0.5)
服飾デザイン	8(1.9)	4(1.0)	12(1.5)	0	0	0
住居観	4(1.0)	9(2.3)	13(1.6)	2(3.3)	2(1.3)	4(1.9)
住宅設計	17(4.0)	22(5.6)	39(4.8)	0	0	0
ニューメディア	19(4.5)	7(1.8)	26(3.2)	0	1(0.7)	1(0.5)
リサイクル	91(21.6)④	89(22.8)⑦	180(22.2)④	13(21.3)⑤	29(19.2)⑦	42(19.8)⑦
地球環境問題	164(38.9)①	159(40.8)①	323(39.8)①	37(60.7)①	79(52.3)①	116(54.7)①
ハイテクノロジー	49(11.6)	7(1.8)	56(6.9)	0	1(0.7)	1(0.5)
21世紀のエネルギー	74(17.5)⑥	20(5.1)	94(11.6)⑩	4(6.6)	6(4.0)	10(4.7)

○内の数字は上位10位までを示している 複数回答(%)

21世紀のエネルギー問題を含め男女共学の学習として環境問題に取り組みたい。

次ぎに高校男子生徒ではエイズ，女子生徒では福祉と介護，男子大学生では生活自立能力，女子大学生では栄養と健康を上げている。このように第二位以下は高校生と大学生，男女間に重視する学習内容の順位に差異がみられる。エイズについては大学生よりも高校生の方に割合は高い。生命への危険，また愛と性とのかかわりから正しい知識を家庭科の学習の中に強くもとめていると考えられる。福祉と介護，結婚と育児は今回の指導要領の改訂で特に力がいれられている項目でもある。福祉と介護は高校女子生徒，女子大学生に割合は高く性差が見られる項目である。女子の場合，既に家庭科の学習の中で学びその重要性を受け止めている，また高齢者の介護は女性の肩に大きくかかっている現実等高齢者社会の到来を真剣に受けとめ，性別役割意識も抱いているということであろうか。結婚と育児においても男女の性差が見られる項目であり高校女子生徒，女子大学生の方が重視している割合は高い。

一方生活自立能力は家庭科の目標でもあるが，男子大学生，高校男子生徒の方に割合は高い。中でも大学性男子にその割合や順位が高いのは，家庭から離れひとり住まいの生活に直面し改めて自立能力の重要さを知る結果の現れであろう。また大学生に消費者問題を重視する者の割合が高いのも特徴である。特に大学生にその割合が高いのは，自ら生活資材やサービスを購入し消費する立場に立ち，その大事さを実感する機会が多くなったことによると考えられる。栄養と健康についても重視する内容として上位にあるが，高校生よりも大学生の方に割合や順位は高く食事による健康管理に心くばりをする実生活の体験と関係していると思える。

家族観については高校生と大学生間にかかなりの差異が見られるのも特徴である。殊に高校男子生徒は重要と思う割合は低く順位は低い。余暇は高校男子生徒，男子大学生の方に割合は高く性差がある。これからの生活時間は学習（仕事）・余暇・家庭生活の3つをいかにバランスをとるかがこれからの生涯生活時間設計の課題といわれる。高校生にとっては余暇時間をどのように過ごすかというよりは，余暇時間が現実には欲しいということの方が実感であろう。衣生活，住生活を重視する割合は全体的に低い。住生活は大学生にとってもまだ重視する内容として実感しないのであろうか。

家庭科の学習内容として重要とおもうキーワードは高校生と大学生間の差異に現れているように，生活の実体験との関係が強い。また性差も特に結婚と育児，福祉と介護等に見られるように，育児，介護は女性の適性と考える意識よりも社会的習慣や家庭教育の中で育まれた性別役割意識の方がまだ存在していると思える。男女が共に力を合わせて家庭・社会を築き，そして長寿社会における日本の福祉のあり方を創造するためにも男女共学の学習の意義は大きい。生徒と教師が共に学び・成長する過程を学習の中で重視していきたい。

2. 分野別の学習内容に重要と思うキーワード

分野は家庭一般の学習内容を基本とした²⁾⁶⁾。

1) 家庭生活分野

高校生が重要だと思う内容は生活自立能力，次ぎに福祉と介護そして余暇の順に，他方大学生から見た高校家庭科の学習で重視したい内容は福祉と介護，次ぎに生活自立能力，

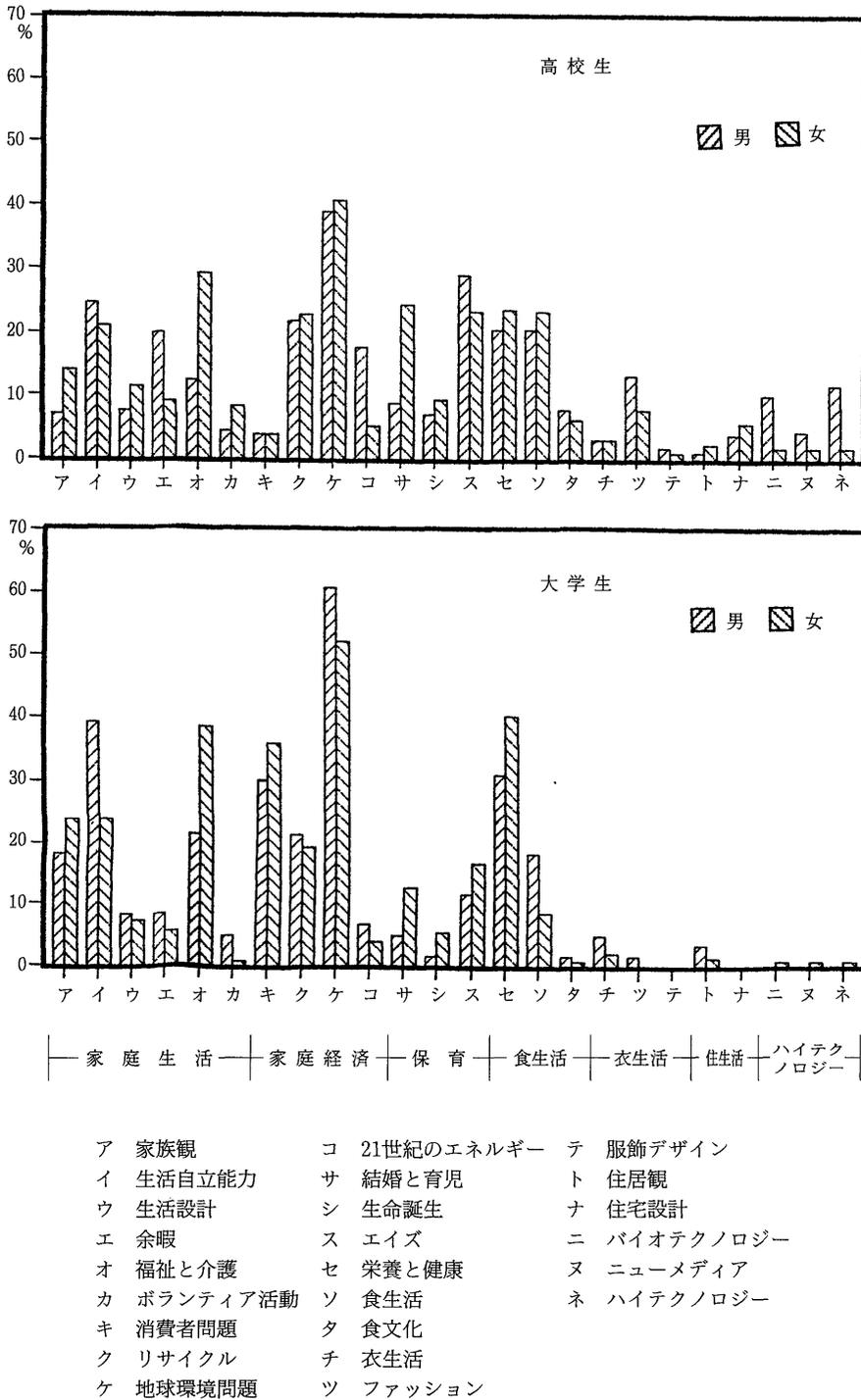


図1 分野別の学習内容に重要と思うキーワード

家族観と続いている。高校生と大学生間の差異は家族観と余暇の項目に特徴が見られる。大学生に家族観は重要と思う割合は高く、他方余暇は高校生に割合は高い。生活設計は高校生徒・大学生共に重要と思う割合は1割弱と低い。ボランティア活動の割合も低い。まだ意識も薄い結果と思われる。人々と共に生きる家庭、社会の福祉のあり方を考え育てていく新しい大事な学習課題である。

2) 家庭経済分野

消費と廃棄に関する項目に限られているが、高校生、大学生共に地球環境問題を重要と思う割合は最も高い。リサイクルや21世紀のエネルギーに関するいわゆるモノとエネルギーの環境問題を考える生活のあり方に関心を深めていきたい内容である。他方消費者問題は重要と思う割合は高校生は男女共に低く4%弱であるが、大学生の割合は高く35%、3人中1人の割合である。消費行動を自ら体験することから重要な学習内容と思うか否か、大学生と高校生間の差異は実際の生活体験の差異による結果と考えられる。

3) 保育分野

人間の生き方、愛と性を考える青年期においてはエイズについて正しい知識を学ぶ重要な内容とする割合は意外と高く、それは大学生よりも高校生の方により強い。結婚と育児、生命誕生の項目には男女の性差が明確であり重要と思う割合は高校女子生徒、女子大学生に高い。結婚に対する意識は高校生において将来したいと思う割合には男女の差異はないが(表2)妊娠、出産、育児に対する認識の差異が女子生徒に学習内容の重視に現われていると思われる。

4) 食生活分野

栄養と健康、食生活は重要と思う割合は男女共に高い。中でも栄養と健康の項目は大学生の方にその割合は高い。一方食生活分野の中でも食文化はそれらの項目に比べると割合は低くなっている。

5) 衣生活分野

衣生活、ファッション、服飾デザインについてであるが、他の分野に比べ重要と思う割合は低い。しかしその中でもファッションは高校生にとって特に男子生徒に重要と思う割合は少し高い。

6) 住生活領域

住居観、住宅設計についてであるが、高校生、大学生共に学習内容として重要と思う割合は低い。まだ現実問題ではなく将来の課題として受けとめているのであろうか。

7) その他

ハイテクノロジーと生活とのかかわりに関し、バイオテクノロジー(生物技術のハイテクノロジー)、ニューメディア(ハイビジョンテレビやCD等情報関係のハイテクノロジー)

表2 将来結婚したいと思っっていますか。(高校生)

	男 子	女 子	合 計
したいと思う	307(72.7)	287(73.6)	594(73.1)
どちらでもよい	98(23.2)	82(21.0)	180(22.2)
したくない	17(4.0)	21(5.4)	38(4.7)

(%)

表3 日常的な仕事は、主としてどちらがすべきだと考えますか。(高校生)

		男 子	女 子	合 計
食 事 の し た く	妻	307(72.7)	256(65.6)	563(69.3)
	夫	4(0.9)	4(1.0)	8(1.0)
	両者	111(26.3)	130(33.3)	241(29.7)
食 事 の 後 片 付 け	妻	190(45.0)	115(29.5)	305(37.6)
	夫	19(4.5)	19(5.0)	38(4.7)
	両者	213(50.5)	256(65.6)	469(57.8)
部 屋 の 掃 除	妻	165(39.1)	126(32.3)	291(35.8)
	夫	7(1.7)	5(1.3)	12(1.5)
	両者	250(59.2)	259(66.4)	509(62.7)
洗 濯	妻	300(71.1)	233(59.7)	533(65.6)
	夫	6(1.4)	6(1.5)	12(1.5)
	両者	116(27.5)	151(38.7)	267(32.9)
日 常 の 買 い 物	妻	229(54.3)	184(47.2)	413(50.9)
	夫	8(1.9)	3(0.8)	11(1.4)
	両者	185(43.8)	203(52.1)	388(47.8)
育 児 の 世 話	妻	128(30.3)	57(14.6)	185(22.8)
	夫	2(0.5)	5(1.3)	7(0.9)
	両者	292(69.2)	328(84.1)	620(76.4)
子 供 の し つ け や 教 育	妻	48(11.4)	16(4.1)	64(7.9)
	夫	18(4.3)	4(1.0)	22(2.7)
	両者	356(84.4)	370(94.9)	726(89.4)
家 計 の 管 理	妻	239(56.6)	193(49.5)	432(53.2)
	夫	15(3.6)	7(1.8)	22(2.7)
	両者	168(39.8)	190(48.7)	358(44.1)

(%)

の項目をあげた。他に素材関係のハイテクノロジーやエネルギー関係のハイテクノロジーがある。重要と思う割合は高校生の男子にやや高く、男女の性差が見られる。大学生には重要と思う割合は殆ど見られず、高校家庭科の学習内容としては受けとめていないと言うことであろう。

要 約

1) 高校家庭科の学習内容として重要と思うキーワードは、消費者問題、生活自立能力、家族観等高校生と大学生間の差異に現れているように、生活の実体験との関連が強い。大学生はひとりの生活者として自立した生活能力の必要性に気づき自らの体験から実感として学習内容の重要性を認識したともいえる。最近の子供たちの生活体験の希薄さが指摘される。それだけに家庭科の学習において、男女共学は共に学び、教え合い感動ある豊かな

体験学習となるよう位置づけ生涯学習時代を自立した生活者として主体的に生きるあり方を自ら知る手掛かりとなろう。

2) また地球環境問題、エイズ等今日的社会的課題や高齢者社会に対する学習内容への期待は強い。正しい科学的知識、総合的判断、行動力が要求されてくる。人と人とのかかわり、人と自然・環境とのかかわり、そして家庭、地域社会、地球の中で生きる人間としての視点から、広い視野にたちどのような人間観、生活観、家族観、環境保全観を創造していくか、自ら課題を主体的に受けとめ行動化する学習内容が期待される。

3) 重要と思う学習内容には男女の性差がある。これまでの学習体験や生活体験の差異、問題意識や、関心の差異等、個人差を含め違いのあるのが自然であり当然であろう。相違があることから出発する男女共学の意義は大きく受けとめたい。殊にその意義は情報が豊かになる。異なる考えや発想が多彩に発揮されるほど情報の選択・分析・判断力は求められ学習も活性化するにちがいない。

4) なお性別役割分担意識は男子生徒の方に未だ強い(表3)。特に食事のしたく、洗濯の家事労働に強く現れているが、女子生徒にも役割分担意識は抱いている。家事は女性の適性と考える意識よりも社会的習慣や家庭教育の中で育てられたものと言えよう。一方育児の世話やしつけ・教育は男女両者と考える男子生徒の割合もかなり高く女子生徒にもその意識の強さが現れている。必要な折は男女を問わず家事参加が出来るよう、これからの家庭科男女共学の学習成果がますます期待される。

いよいよ始まる家庭科男女共学は一人一人が自らの将来のあり方生き方を視野にいれ学び方を学ぶ新しい視点に立つ家庭科学習である。長寿社会、生涯学習時代をいきいきと生きる自立した生活者、豊かな人間性・自己実現を重視する家庭科学習が質的に充実した内容になるよう努力していきたい。

終わりに調査にご協力いただきました諸生徒・学生、諸先生方に心から感謝申し上げます。また貴重なご助言をいただきました長崎大学教育学部糸山景大教授に厚くお礼を申し上げます。

文 献

- 1) 上寺久雄, 高校教育改革の課題と方向性, 教育と医学 第41巻8号, 1993.
- 2) 津止登喜江・河野公子, 改訂高等学校学習指導要領の展開 家庭科編 明治図書, 1990.
- 3) 奥田真丈, 教育改革をめぐる家庭科教育の諸問題, 日本家庭科教育学会誌 第29巻3号, 1986.
- 4) 桑原美沙子, 高等学校における家庭科の男女共学を深め, 広めるために, 共学実践にもとづく家庭科展開事例集II 一橋出版, 1992.
- 5) 貴田康乃・増田久子, 高校家庭科男女共学に関する調査研究(第2報)(第3報), 日本家庭科教育学会誌 第31巻3号, 1988.
- 6) 一番ヶ瀬康子・村田康彦, 家庭一般 平成6年用, 一橋出版, 1993.
- 7) 藤枝恵子, 新学習指導要領と新しい家庭科教育, 家庭科教育 第63巻9号, 1989.
- 8) 中間美砂子, 新しい高等学校家庭科教育, 家庭科教育 第63巻9号, 1989.
- 9) 亀崎多佳子・岩田和子他, 高校家庭科男女必修について, 日本家庭科教育学会誌 第35巻3号, 1991.

- 10) 石岡富貴子, 高齢化社会の到来と学校教育の役割, 家庭科教育 第36巻3号, 1993.